

平成 28 年 6 月 22 日現在

機関番号：33937

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520718

研究課題名(和文) 言語力育成のための小学校国語科と外国語活動を連携させる新しい教育方法の研究

研究課題名(英文) Utilizing Pupils' Own Knowledge of Japanese Language as a New Approach to Teaching English in Elementary Schools

研究代表者

西崎 有多子 (Nishizaki, Utako)

愛知東邦大学・教育学部・准教授

研究者番号：80259340

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、外国語活動においてより教育効果を上げるために、児童のことばへの関心を高め、気づきを促す必要性について述べ、児童が体験的に理解できる具体例を挙げて、外国語活動と小学校で学ぶ国語、日常生活におけることばを連携させて、児童の持つ母語の知識を活用して更なる学びにつなげる提案をした。また、国語教科書と外国語活動のテキストの比較、オリジナル英語劇の活用、外来語や商品のネーミングの体験的教材化等を通して、その指導の具現化を提案した。今後、小学校国語科と外国語活動(小学校英語)の科目の垣根を越えての積極的な連携によることばの教育として、活用されることが望まれる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of the study is to show the importance of the pupils' awareness of the two languages, English and Japanese, during foreign language activities in elementary schools in Japan. Taking advantage of what pupils know about their own language can be an important strategy for learning English successfully. Various experiences and engaging activities support and raise the pupils' awareness about the two languages. Examples and suggestions for teaching materials and lesson plans are provided. The use of drama, GAIRAIGO, WESEI-EIGO and trade names are essential components to these lesson plans.

研究分野：英語教育

キーワード：小学校英語 外国語活動 英語と国語の連携 言語力育成 ことばへの気づき

1. 研究開始当初の背景

(1) 外国語活動は、平成 23 年度から必修化されたが、その内容、教育方法は日本独自のものと言ってもよく、スキルの習得ではなくコミュニケーション能力の素地の育成を目的としている。他国における前例がないため、今後、教育効果を上げるためには、その教育方法の研究が必須である。その一つの方法として考えられる小学校国語と連携した教育については、まだ内容的にも限られた研究しか行われていないが、今後必ず必要となる研究分野であると確信した。

(2) 小学校では、国語科は科目、外国語活動は領域として分類されているが、学級担任がその両方を担当する場合が多く、中学校・高等学校とは異なる環境にある。小学校では、国語と英語を連携させながら教えることで、相乗効果を狙うことができる環境が整いやすい。ことばに関する既知の知識を効果的に用いることで、英語を学ぶ際の相乗効果が期待できる。

2. 研究の目的

(1) 外国語活動は年間 35 時間を基本としており、学習時間・学習内容が限られており、文法は規則としては教えないことになっている。授業で多くの事例を示したいところであるが、英語だけを用いて言語習得に寄与する認知能力を鍛えていくことは困難である。また、小学生の段階では、児童の認知面、言語発達面で、未分化な部分が残っており、国語と英語の垣根を越えての言語としての学びがより可能である。小学校における外国語活動は、「体験的に」行うことが重要であり、児童にとって母国語である日本語と英語をうまく使うことによって、児童は読み取り能力やパターン抽出能力を伸ばすことができる。自らの仮説に対して、日本語であれば帰納的にも正しいことが体験的に理解でき、ことばへの気付きもより活発になり、日頃からことばを意識するようになる。ことばを分析できる能力は、言語習得に結びついている。ことばへの関心が高まれば、中学校で国語や英語に興味を持って学ぶ姿勢が持てることになり、プラス方向のスパイラルが生まれる。

(2) 国語との連携を行うことで、外国語活動をことばの学習の基礎と位置づけることができ、教師の不安の軽減にもつながる。ことばの教育としての相乗効果が期待できる。

3. 研究の方法

(1) 国語を中心として教科書と指導書、副読本等小学校レベルにあった国語教材、英語ノートと平成 24 年度から使用される外国語活動新教材、海外の絵本やジュニア向け英文教

材を精査する。

(2) 小学校の教育現場を訪問し、授業を観察・記録し、小学校教員からの聞き取り調査と併せて現状を調査分析する。小学校教員ならびに指導主事等関係者と面談し、聞き取り調査を行い、更なる現状把握を行う。

(3) 児童の持つ日本語能力を最大限に活かしながら、より体験的な教材開発を行い、教育方法を具体化する。

4. 研究成果

(1) オリジナル劇を用いた授業展開の提案
文部科学省発行の外国語活動のテキストである "Hi, friends! 2" Lesson 7 "We are good friends." における桃太郎のオリジナル劇づくりと民話としての桃太郎について、オリジナル劇化についての意義と期待される効果、具体的な指導と授業展開の方法の提案、民話としての桃太郎とその活用について研究し、論文執筆、学会発表を行った。日本の民話である桃太郎を国語科としてより深く理解し、その中から子どもたちが自分の表現したい内容を外国語活動において英語で表現する。劇という舞台上で思いを伝える力を身につけていくために、国語科とどのように関連させてより効果を上げることができるかその可能性について、学級担任がその科目の垣根を越えて両者を関連付けながら指導する際の留意点についても述べた。

(2) 外来語を用いた体験的授業の提案
子どもにとっての英語と国語の身近な接点である外来語を、今までの扱い方とは異なった視点で授業を展開することの意義とその具体例を挙げることにより、外国語活動と国語を連携させる有効性を述べた。外来語に加えて、現代のカタカナ語の濫用と江戸時代末期の西洋文化流入時の日本語における対応と受容を研究することにより、新しい文化に出会ったときのことばの変化についても研究し、それらの内容を整理し、授業で活用するための試案を示した。

(3) 商品のネーミングからことばへの気付きへ導く指導の提案
子どもたちが日常生活の中で、体験的に目にしている商品の名前から、その特徴に気付き、分類したり、商品名を効果的にするためのことばを考えたりすることにより、ことばに対する様々な気付きに導き、国語、英語、外国語への関心を高める指導を提案した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 10 件)

西崎有多子、「ネーミングとパッケージを使ってことばを考える」、『国際理解教育へ

のとびら』、査読無、第 19 号、pp.53-60、2015 年 3 月

西崎有多子、「ネーミングの工夫からことばへの気付きへと発展させる指導 小学校におけることばの教育の一案として」、『東邦学誌』、査読無、第 44 巻第 2 号、pp.1-11、2015 年 12 月

西崎有多子、「商品のネーミングからことばへの気付きに導く指導 小学校における国語、英語、外国語を連携させて - 』、『東邦学誌』、査読無、第 44 巻第 1 号、pp.111-122、2015 年 6 月

西崎有多子、「新しいことばの創造と受容を通して日本語と外国語を考える指導 小学校国語科と外国語活動の連携の試み」、『東邦学誌』、査読無、第 43 巻第 2 号、pp.77-86、2014 年 12 月

西崎有多子、「『外来語を用いて「国語」と「外国語活動」をつなぐ～ことばへの気付きと考察へと導く試案～』、『国際理解教育へのとびら』、査読無、第 17 号、pp.109-114、2013 年 3 月

西崎有多子、「『外来語を使って「外国語活動」と「国語」を連携させる授業を創る』、『東邦学誌』、査読無、第 42 巻第 2 号、pp.45-64、2013 年 12 月

西崎有多子、「『外国語活動 における小学校国語教科書の活用と“Hi, friends! 2” Lesson 7 の指導』、『東邦学誌』、査読無、第 42 巻第 1 号、pp.19-28、2013 年 6 月

西崎有多子、「『桃太郎』を発展させるオリジナル英語劇の持つ意味』、『国際理解教育へのとびら』、査読無、第 16 号、pp.73-76、2012 年 3 月

西崎有多子、「『小学校外国語活動における「桃太郎」を使った授業展開 英語劇化への過程と民話としての側面』、『東邦学誌』、査読無、第 41 巻第 3 号、pp.1-21、2012 年 12 月

西崎有多子、「『小学校外国語活動におけるオリジナル劇の可能性 新教材 “Hi, friends!” より「桃太郎」を使って』、『東邦学誌』、査読無、第 41 巻第 1 号、pp.75-88、2012 年 6 月

〔学会発表〕(計 7 件)

西崎有多子、「商品のネーミングからことばへの気付きに導く指導 小学校における国語、英語、外国語を連携させて」、『第 15 回小学校英語教育学会(JES)広島大会(全国大会)』広島大学・東広島キャンパス、2014

年 7 月 26 日

西崎有多子、「江戸時代以降の日本語における翻訳語からことばを考える～小学校国語、外国語活動(英語)、中国語を関連させて～』、『日本児童英語教育学会(JASTEC)第 22 回九州沖縄支部研究大会、久留米大学・福岡サテライト、2014 年 10 月 26 日

西崎有多子、「新しいことばの創造と受容を通して日本語と外国語を考える指導～江戸時代から現代に至る異文化流入とその影響を通して～」第 14 回小学校英語教育学会(JES)神奈川大会(全国大会) 関東学院大学・金沢八景キャンパス、2014 年 7 月 26 日

西崎有多子、「『外来語を使って「外国語活動」と「国語」を連携させる授業を創る - 児童の気付きとことばへの考察を促す教材としての外来語 - 』、『第 21 回日本児童英語教育学会(JASTEC)九州沖縄支部研究大会、久留米大学・福岡サテライト、2013 年 10 月 27 日

西崎有多子、「『外国語活動と国語科を連携させる教育の可能性～外国語活動と国語に共通することばの教材としての外来語を使って～』、『第 13 回小学校英語教育学会(JES)沖縄大会(全国大会)琉球大学、2013 年 7 月 14 日

西崎有多子、「『“Hi, friends!” における「桃太郎」を使ったオリジナル劇の指導』、『日本児童英語教育学会(JASTEC)中部支部秋季研究大会中部学院大学・各務原キャンパス、2012 年 9 月 23 日

西崎有多子、「『小学校外国語活動におけるオリジナル劇の可能性 新教材より「桃太郎」を使って』、『第 12 回小学校英語教育学会(JES)千葉大会(全国大会) 千葉大学、2012 年 7 月 15 日

〔図書〕(計 4 件)

西崎有多子、「『国語と英語の連携を意識した授業を考える - 小学校におけることばの教育の相乗効果をめざして - 』三恵社、2016、170 頁

西崎有多子、古市久子、金澤延美、加藤拓由、藤重育子、唯学書房、「第 6 章 ネーミングからことばを考える」、『ことばでつなぐ子どもの世界』、2016、pp.117-135

西崎有多子、古市久子、澤田節子、荒川紘、山極完治、唯学書房、「第 5 章 江戸時代末期からの西洋文化流入と日本語における受容」、『ならぬことはならぬ 江戸時代後期の教育を中心として』、2014、pp.123-130

西崎有多子、古市久子、澤田節子、荒川
紘、高橋衛、唯学書房、「第5章 江戸時代
の外国語事情 蘭学から英学、そして開国
へ」『江戸時代の教育を現代に生かす』、2012、
pp.91-108

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

取得状況（計0件）

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西崎 有多子 (NISHIZAKI, Utako)

愛知東邦大学・教育学部・准教授

研究者番号： 80259340

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし